

児童図書室だより

🐱 よんでみませんか 児童図書室がえらんだ本 🐱

ものがたり
ちしきの本

No. 105(2018. 10)

ふたりはとっても本がすき! 【小低】

如月 かずさ 作 いちかわ なつこ 絵
小峰書店 2018.7
(J913-キサ-1111541611)

チーターのチッタちゃんとカバのヒッポくんは、本を読むのが大好きです。でも、ふたりの本の読み方は正対。はやく、たくさん読むチッタちゃんと、じっくり、一冊ずつ読むヒッポくん。チッタちゃんは、ヒッポくんのようにゆっくり読んでみようと思いますが、やっぱり面白いとあっという間に読んでしまいます。そして、ヒッポくんの方も…。本の感想を言い合ったりおすすめし合ったり、ふたりは本を通して友情を深めていきます。

ゲンバクとよばれた少年 【小中～小高】

中村 由一 著 渡辺 考 聞き書き 宮尾 和孝 絵
講談社 2018.7
(J361-ナカ-1111536166)

中村由一さんは、2歳10か月の時、長崎で原爆の被害にあいました。爆風に吹き飛ばされ、レンガの下敷きになり、頭と両足に大けがを負いました。けがのため頭に髪の毛がなかった由一さんは、小学生の時「ハゲ」「カップ」、さらには「ゲンバク」と呼ばれていじめを受けました。就職活動の際には、被差別部落出身者であることから希望の会社に就職できませんでした。戦争・差別・いじめのない世の中が来ることを心から願う由一さんが、自身の被爆体験や被差別体験を語ります。

星空を届けたい

出張プラネタリウム、はじめました! 【小高】

高橋 真理子 文 早川 世詩男 絵
ほるぷ出版 2018.7 (J440-幼-1111544730)

山梨県立科学館のプラネタリウムで、長年、星や宇宙に関する仕事をしてきた高橋さん。娘の入院をきっかけに、目が見えない人や長期入院の子どもたちにも、星空を届けたいという想いをつのらせていきます。その後、科学館をやめ、移動式のプラネタリウムを持って全国の病院や被災地を回り、星空や宇宙と自分たちとのつながりについて語る活動を始めました。全国で8000人が体験した〈病院がプラネタリウム〉の誕生物語。

十年屋 時の魔法はいかがでしょう? 【小高】

廣嶋 玲子 作 佐竹 美保 絵
静山社 2018.7
(J913-シロ-1111538536)

亡くなったお母さんからもらったぬいぐるみをリリは大切にしてきました。でも、新しいお母さんは、残っていたお母さんのものを次々と処分しています。ぬいぐるみも捨てられそうで悩んでいると、十年屋というお店のカードを発見。カードには「忘れたくても忘れられないたいせつなもの、思い出と一緒に魔法でおあずかりします。」と書いてありました。十年屋に行ったリリは、1年の寿命と引き換えに、魔法使いの青年にぬいぐるみをあずけることに…。全6話

もりのほうせきねんきん 【幼児～小低】

新井 文彦 写真・文 ポプラ社 2018.5
(J473-アラ-1111515335)

ねばねばした菌という意味のねんきん(粘菌)。菌といってもきのこの仲間ではなく、アメーバの仲間です。えさを食べ、うんちをし、動き回ります。ねばねばと広がる姿から宝石のように美しい姿まで、いろいろな形に変わります。森へ行ったら、たおれた木の上や地面をじっくり探してみてください。きっと見つけることができますよ。いろいろな色や形をした美しい粘菌の世界を写真で紹介します。

凸凹あいうえおの手紙 【小高】

別司 芳子 著 ながおか えつこ 絵
くもん出版 2018.6
(J913-ベツ-1111528155)

全校で地域のお年寄りを招待して、「交流会」を開くことになりました。招待状を配るのは6年生の役目。ある日、大地が担当する佐山さんというおばあさんから出欠の返事が来ていないと知らされます。大地は、佐山さんが留守のようだったので、招待状を手渡しせずに郵便受けに入れてきたのです。実は、佐山さんは目が不自由だったので。大地は、どう接したらよいのかわからず、なかなか声をかけられません。そこで、点字で手紙を書くこと思いつきます。

よくばり学園 【小高】

ファブリツィオ・シレイ 著 佐藤 まどか 訳 中垣 ゆたか 画
講談社 2018.6
(J973-シレ-1111531867)

自分のことしか考えないよくばりで金持ちのスマース夫妻に、息子のプリモが生まれました。プリモは、乳母のおかげで優しい子に育ちました。でも両親は、プリモの優しさを心配し、「よくばり学園」に入学させます。クラスメイトも先生も、よくばりな変わった人だらけ。プリモは、優しい性格と賢い頭で徐々にクラスメイトや先生、学園自体を変えていきます。でも、一人だけ、プリモのことを快く思わない人がいて…。アンデルセン賞受賞作家の愉快なお話。

小林先生に学ぶ動物行動学

攻撃するシマリス、子育てするタヌキ 【小高～YA】

小林 朋道 著
少年写真新聞社 2018.7
(J481-コハ-1111538572)

著者の小林先生は、動物行動学の研究をしています。動物行動学とは、「その動物はなぜそのように行動するのか」を研究する学問です。例えば、シベリアシマリスが冬眠中や弱っている蛇をかじり取ってかみほぐし、自分の体にぬりつけるのはなぜ? 同じ地域に住む複数のタヌキが、決まった場所にフンや尿をするのはなぜ? など。身近な野生生物から人を操る寄生生物まで、彼らの意外な行動について楽しく学べます。

愛知県図書館 児童図書室

